

母塾

2021・7・10

illustrated by Kurumi

VOI-60



『 ママは、充電器 』 いのはなはるこ

学校から帰り、ゴロンと横になる6才の末っ子。
「ママ、ちょっと来て。」と一緒に寝ると、いつものように足を絡めて来ます。
「ママ、ってジュウデンキみたいね。」

私は、果たしてこの子にあげるエネルギーがあるだろうか。
中学生の兄も疲れた顔で「ただいまー」と帰ってきます。
高校生も、専門学校生も遅い時間に帰ってきます。
全員がバッテリーが残りわずかで点滅しています。
彼らも睡眠と入浴と食事と、好きな音楽で充電するのでしょうか。

家庭はカッコをつける場所ではないのです。
外でさんざんカッコつけて頑張ってきたメンバーが羽を休める場所です。
鏡の前で長い時間をかけて整えたお兄ちゃんの髪もボサボサです。
一番かっこ悪い姿をさらけ出す場所です。
だから、愚痴を言って、イライラをぶつけて、ケンカを売ったりもします。
それでも許される場所だからです。

ママもパパも同じです。
「ママも今日疲れたよー。ちょっと聞いてよ！」と次女にぶつけます。
カッコいいママじゃなくてもいいのだと思います。
「今日、外でさんざんカッコつけちゃったよ・・・」と言うと、次女は苦笑い。

美味しいものでも食べようか？いや、それよりも早く寝たいよ。
お絵描き中の6才の子に「ちょっと来てくれる？」と呼ぶ。
横になり、足を絡めて「ちょっとでいいから、一緒に寝ようよ。」
チャージしてもらっているのはママの方なのかもしれません。

harukoinohana1717@gmail.com